特 I
2287

ガラス使用

假名讀十四經治法卷之下

一 銅人形總圖

□ 印ハ灸と禁
△ 印ハ針と禁

上星
五所
目窓
本神
頭維
頷厭
懸釐
懸顱
卒谷
神庭
曲差
臨泣
陽白
攅竹
耳門
和髎
曲鬢
客主人
絲竹空
睛明
瞳子髎
承泣
四白
聽宮
下關
顴髎
巨髎
頬車
聽會
素髎
迎香
水溝
禾髎
兌端
地倉
地倉
大迎
承漿
頰舍
水突
扶突
天鼎
肩井
結喉
天突
肩髃
雲門
中府
天府
俞府
彧中

帝國圖書館藏

宮内省藏書

ガラス使用

特 1
2287

百會
前頂
顖會
上星
神庭
後頂
強間
腦戶
風府
瘂門
通天
承光
五處
曲差
臨泣
目窓
正營
承靈
絡却
玉枕
腦空
本神
頭維
頷厭
懸顱
懸釐
曲鬢
天衝
率谷
浮白
角孫
竅陰
完骨
天柱
風池
陽白
攢竹
絲竹空
瞳子髎
睛明
承泣
四白
巨髎
迎香
素髎
水溝
兌端
禾髎
地倉
承漿
顴髎
下關
客主人
和髎
耳門
聴宮
聴會
頰車
翳風
天牖
大迎
天容
天窓
肩井
扶突
天鼎
人迎
水突
氣舎
廉泉
天突
璇璣
華蓋
紫宮
缺盆
兪府
彧中
神藏
氣戶
庫房
屋翳
雲門
中府
周榮

玉堂
膻中
中庭
鳩尾
巨闕
上脘
中脘
建里
下脘
水分
神闕
陰交
氣海
石門
關元
中極
曲骨
靈墟
神封
歩廊
幽門
通谷
陰都
石關
商曲
肓兪
中注
四滿
氣穴
大赫
横骨
膺窓
乳中
乳根
不容
承滿
梁門
關門
太乙
滑肉門
天樞
外陵
大巨
水道
歸来
氣衝
急脈
胸郷
天谿
天池
食竇
期門
日月
腹哀
大横
腹結
府舎
衝門
陰廉
章門
帶脈
五樞
維道
居髎
青靈
天泉
少海
曲澤
尺澤
揵骨

腋より季助まて一尺二寸

季助より環跳まて六寸

淵液
輒筋
曾胸
天谿
膺窓
天池
乳中
神封
大包
食竇
歩廊
乳根
期門
幽門
不容
通谷
日月
承満
梁門
陰都
石関
関門
腹哀
京門
大乙門
商曲
滑肉門
大横
帯脉
育兪
天樞
腹結
外陵
中注
五樞
四満
大巨
捷骨
氣穴
水道
維道
府舎
衝門
大赫
居髎
横骨
環跳
氣衝
髀関
膻中
中庭
鳩尾
巨闕
上脘
中脘
建里
下脘
水分
神闕
陰交
氣海
石門
関元
中極
曲骨

環跳より膝の膕の横紋の外角まで一尺九寸なり

伏兎
中瀆
陰市
梁丘
陽関
犢鼻
三里
陽陵泉
上巨虚
豊隆
下巨虚
條口
陽交
外丘
光明
浮郄
委陽
委中
合陽
承筋
承山
飛陽

懸鐘
附陽
陽輔
崑崙
申脈
丘墟
解谿
冲陽
大冲
行間
地五
束骨
通谷
至陰
竅陰
侠谿
京骨
大敦
厲兌
内庭
陥谷
臨泣
金門
僕参
曲池
小海
三里
上廉
下廉
四瀆
温溜
偏歴
支正
三陽絡
支溝
外関
会宗
養老
陽谷
陽池
陽谿
腕骨
合谷
後谿
中渚
液門
三間
二間
前谷
小沢
関衝
商陽

箕門
陰包
血海
陰谷
曲泉
内輔
三陰交
陰陵泉
膝関
地機
中都
漏谷
築賓
蠡溝

臍下の横骨の上廉より
内輔の上廉まで一尺八すんあり

内輔の下廉より内踝の
下廉まで一尺三すんあり

尺澤
曲澤
少海
孔最
郄門
間使
内関
経渠
列缺
大淵
魚際
大陵
労宮
少商
中衝
少府
少衝
霊道
通里
陰郄
神門
交信
復溜
大鍾
大谿
三陰交
中封
太衝
水泉
照海
湧泉
然谷
商丘
公孫
大白
大都
隠白

曲澤より大陵の間一尺二寸半

大陵より中脂の末まで
八寸あり
尤別に口授あるなり

百會
後頂
強間
脳戸
瘂門
承霊
絡却
玉枕
脳空
天柱
風池
天衝
率谷
浮白
竅陰
角孫
顱息
瘈脉
完骨
翳風
天牖
大椎
陶道
身柱
大杼
風門
肺俞
厥陰
附分
魄戸
天宗
肩外
天髎
肩井
曲垣
巨骨
肩髃
臂臑
臑兪
肩貞
臑會
消濼

承霊脳空督脈と去こと各二寸一分
風池督脉と去こと二寸
絡却玉枕督脈と去こと各一寸五分
天柱督脉と去こと一寸三分

ガラス使用

五里
曲池
肘髎
三里
清冷淵
天井
消濼
膏肓
神堂
譩譆
膈關
魂門
陽綱
意舍
胃倉
肓門
志室
胞肓
秩邉
環跳
心俞
膈俞
肝俞
膽俞
脾俞
胃俞
三焦俞
腎俞
大腸俞
小腸俞
膀胱
中膂
白環
上髎
次髎
中髎
下髎
會陽
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
廿一
神道
靈臺
至陽
筋縮
脊中
懸樞
命門
陽關
腰俞
長強

曲池より腕の陽谿にいたるまで一尺二寸半

㊁ 癰疽門

癰疽の初て出る先其經絡の部分を看て其各〻經ふ隨ひて針を行ふべし間日なし。如し或ハ針。日を間するときハ効なし。日を逐ふて刺し。或ハ一日ふ再び刺し以て其毒を瀉するときハ十日に至らずして自ら安し。若し針。日を間て或ハ針五六度して病者苦しみ半途ふして癈すれば死ふ至る。如し或ハ死せざれども腐肉より新肉を生じ。艱苦萬痛累月ふ及ぶ。其辛苦譬るふ物なし。若し病人針治を欲せざれバ。急ふ騎竹馬の穴よ灸すること七壯神効あらずといふことなし ○又方癰疽初め出の三日の

前急に其腫物の頭に灸二十一壯自ら安し△其初發は至つて小にして粟のごとく故に人之を忽にして其毒を發するに至るを待て終に死するに及ぶ追つて悔るとも及ばざるべし若已に三日を過ぬれば即ち騎竹馬の穴に灸各〻七壯奇効あらざることなし○癰疽諸腫或は痒かくぞ痛ば色青黒のなれば肉先死して終に救べからず其初起に急に騎竹馬の穴に灸すべし各〻七壯○癰疽發脊皆日を逐つて経絡に針を行へば自ら安し然れども未能治することは能はず竟に熟し膿に至る三稜針を以て赤暈の四畔を刺すべし而して大針を以て腫物の頭と裂破る連日に悪肉盡く消し新肉已に生ずるなり

③騎竹馬の穴法

一條の蠟縄を以て病人の尺澤の横紋より中指の端まで を量て。截斷。偖病者の衣裙を解き體を露し直竹の上に騎坐せしめ。尾窮骨に當て坐するに堪しめ彼先に量る蠟縄を脊より坐すれば竹の上に竪にし。縄の端盡る所の脊の上に借點し。更に別の紙捻を作て病者の中指の中の節を量り一寸とし。脊の借點より左右へ濶さ端の盡る所に各々灸七壯。止多く灸すべからず此法を以て之に灸すれば愈ざるはなし。蓋し是二穴は。心

ガラス使用

脉の過る所なり。凡癰疽の疾ハ皆心氣留滞に於て此毒を生ず。之に灸すれバ則心脉流通し。即時よ安し以て死を起し生を回すれ奇方なり

㊃ 腸癰門

腸癰ハ小腹より腰に連て痛し或ハ一脚を蹇。身熱すること火のごとく。小便數うして欠し。晝ハ微し歇ども夜劇きハ三十餘日の後に膿となる。未膿ざるの前。預め騎竹馬の穴に各く灸七壮神効あり。已に膿て後ハ肘の尖に百壮。膿汁注ぎ下ること一二鉢神効あり

㊄ 疔腫門

○疔腫面上口角に生ずるにハ。合谷。下三里。神門に針すべし○手上に生ずるハ曲池の穴に二十一壮○脊上に生ずるにハ肩井よ七壮△病の輕き重きを觀て。重きものハ數を倍して灸すべし。并に騎竹馬の穴に灸七壮

㊅ 蒜灸の法

蒜を隔て灸するの法ハ。其腫毒大に痛。あるひハ痛ず麻木するに先濕紙を以て其腫物の上を覆ひ其乾く處を候ひ乃ち是腫頭なり即ち蒜を片とし厚さ三分ばかりにし腫物の頭の上に置き之に灸すること五壮にして蒜を更へ數々灸すべし。初め灸して疼ハ灸して痛ざるに至

る。初灸して痛ざるは灸して痛に至る此則ち鬱毒を引の法なり。且田生の功あれバなり。若し腫色白して膿と作ざれハ日期を問はず宜く多灸すべし。若腫物大なる蒜を搗たゞらし。患ところに鋪て艾を置て灸するなり

⑦ 附子灸の法

附子を削ること厚さ碁子の如く。正に腫物の上に着け唾して附子を濕し艾を附子の上に置灸して。熱をして附子に徹せしむ乾んとせバ更に唾つけ熱をして附子に徹せしむ屢々乾バ輙ち改むべし。艾氣附熱と相撃て腫物に徹せしむ則ハ愈ざるはなし

⑧ 石癰門

腫堅して根あり石の如くなるは石癰とて腫物の上に灸百壮或ハ二百壮毎日に灶べし石子の如きかれも碎け潰るゝなり

⑨ 風丹并に火丹毒

三稜針をもつて間もなく腫る處及び暈の畔を亂刺して多く悪血を出し翌日更に赤氣の在ところを看て初のごとく亂刺して血を捨ること糞のごとくすれバ神効有

△瘿瘤　針し破るべからず。針する則ハ毒を肆にす

肉瘤　針灸することハ皆人を殺す。慎むべし

ガラス使用

血瘤　針すゝれハ大に血を出て止ずして死す

△瘤に種々ありて皆能治し易かれバ。其數三十有六最も血瘤。肉瘤。癭瘤ハ針灸の施しがたきなり膏藥服藥を以て治すべし

⑩ 蟠蛇癧

瘰癧の別名なり頂を繞て核を起すハ蟠蛇癧と名附

○天井。風池。肘の尖に百壮。下三里。百労。神門。中渚。外關大椎。皆倶に灸して神効あり

⑪ 大小便

○大小便通ぜされハ。膀胱俞に三壮。丹田に二十一壮。胞門に五十壮臍下一寸半。両傍各々三寸に灸百壮。大腸俞に三壮○小便黄赤にして禁ぜざれバ。膀胱俞。三焦俞。小腸俞に針すべし○小便通せずして。臍下冷るに。胞門丹田。神闕。營衝。膀胱俞皆灸をすべし○小便難きに。臍に對する脊骨の上に灸三壮○小便に血交り出るは胃俞。關元。曲泉。營宮。三焦俞。腎俞。氣海に年の壮。太冲に三壮膀胱俞。小腸俞。皆灸すべし○腸鳴て溏泄して腹痛するに。神闕に百壮。三陰交に三壮

⑫ 腰脊門

○腰の邊より脊へかけて疼。溺水の濁るに章門に百壮

腎俞に百壯。膀胱俞。氣海に二十一壯○卒に腰痛て伸屈の自由なりがたきハ腎俞。尾窮骨よりて上へ一寸より七壯づゝ。婦人ハ八髎に五十壯○又法病者をして正しく立し細き竹と地よりて竪に臍と量りて竹に記しとつけ其竹と後の脊骨に着け。竹の上乃記しの當るところに灸すること年の壯に隨ふ。是を俗に臍がへしと呼ぬ○腰痛て腹の鳴るハ。神闕に百壯。胃の俞に年の壯。太谿太冲。三陰交に五十壯。妙効あり○老人の腰いたむには腎俞に三十壯。命門に五十壯。即効あり○腰腫て倦く痛るハ崑崙。太冲。章門に二十一壯能愈るなり

---

⑬ 咳嗽門 并痰喘

凡痰喘ハ熱に因て上りて大氣の炎上より致すなり○咳逆久しく止ざるにハ大椎より五の椎に至る節の上に灸すること年の壯に隨ふ。而して期門に三壯。立どころに止こと神効あり○又方乳の下。一指と留むばかりに當りて正に乳と相直る胸肋の間陷なる中に灸すること三壯。女人ハ乳の頭と屈めく之と取り灸に。男ハ左りて女ハ右りて肌に至るべ立處に治そ神のごとし○音失ふるハ。魚際。合谷。間使。然谷。肺俞。腎俞に灸すべし○喘息るハ合谷。太谿。上星。太陵。列決。下三里等に久しく針

と留めく其氣と下れべし○哮喘には天突に五壯。又細き蠟繩の類を頸に套け前に垂しめ。鳩尾の骨の尖りを量て其両端を後に旋し脊骨の上へ索の盡る處に點記し灸七壯より二十一壯○痰喘には膏肓俞に灸し。腎俞に灸べし合谷に針し太淵に針し亶中に二十一壯神効あり

⑭膝脚門

○足の内外の踝し紅く腫て日久しく膿もて微しく痛て座しがたきは。騎竹穴に灸七壯。若愈ざれは更に灸すべし○足脚輙ち轉筋をして痛忍びがたきは承山に灸三十一壯。若し内らの筋攣まば内踝しの尖りに七壯外の筋急まば外踝しの尖に七壯妙なり

⑮手臂門

両手倶に大よ熱して火の中に在ごとくなるは。湧泉に灸五壯立どころに効あり○左右の手足倶に何となく倦く力なきは神闕に百壯如しそれにて愈ざれは五百壯を灸すべし○手の五指倶に屈んで伸ざるには曲池。合谷。中脘に針すべし伸く屈ざるもよし

⑯鼻病門

凢水出ると衄となひ血出ると衄となふ倶に風府。迎香。上

ガラス使用

星に十四壮灸して。太冲。絶骨。合谷。大陵。尺澤。神門等を治すべし ○衂血止ずして瘖して言語こと能はざるには肺俞。合谷。間使。大谿。靈道。風府。太冲等治すべし ○鼻塞るには臨泣。合谷に灸すべし ○鼻の中に瘜肉を生じて涕出るには上星に百壮。迎香。神門。合谷。肺俞。尺澤。顖會皆灸すべし

⑰ 痢疾門

○赤白痢には臍中に百壮神効あり ○脱肛して若しくは神闕に年の壮百會に二十一壮膀胱俞に三壮 ○大便秘結し絞重するには巴豆の肉を錬て餅のごとくし臍の中にいれ其上に灸三壮即効あり

⑱ 痔疾門

痔は凸の肉孔の中より出るなり是肉に三稜針を用ひて多く血を取棄れば立處に治愈す ○又方凸の肉に灸すること百壮即ち平ぎて効を奏す ○痔疾種々の症ありといへども百會。瘂門等に灸して神効あり

⑲ 勞瘵門

勞瘵には獨り艾火をもって貴とし鍼術藥餌は功大なし微し。脊の第三推より十五推の尖に灸して効あり。或は脊骨を挾んで両傍も其病鬱の氣の聚る所と見認て數所を燒べし ○四花患門等に灸五萬壮妙 ○又方腰

ガラス使用

眼の穴ふ艾と安し山椒の末と密ふ錬りく餅の如くし其四畔を闌て火氣を留しむ。數日灸して三万壯ふ至るべ族類に傳る虫な殺す是を遇仙の灸と名附神効有

㉚ 四花の穴法

第二穴ハ先患人を平身に正しく立し蠟縄を以て。男ハ左女ハ右の足の大拇指の端ふ縄の頭を當て足の掌に循し後ふ向いしめ膝の胸ての所大横紋に至りて截斷偖患人の髪を解き両邊へ分平身ふ正しく坐しめ彼足を量りし縄を鼻の尖の上よあて指して按へしめ縄を引き上に向ひ頭の正中皮ふ循ふて腦後に至て肉ふ付く垂と下し背骨の正中に當て縄の端の竭處ふ記しお附け卻て病者の口を微しく合さしめ短き蠟縄を以て口の左の角より上へ唇の吻ふ循て鼻の根ふ至て斜よ下し口の右の角に至るなり 是の如くなして截斷此縄を展べ中を摺て墨して記し先ふ記しる背中の骨の上ふ壓し當て墨と記とと合せ横ふ左右へ濶き平らふして高下もなく縄の両頭の竭ところ墨して記すべし條なり

第次の二穴ハ病人を平身ふ正しく座せしめ両肩を脱

ガラス使用

し蠟縄を以て項を繞りし前に向ひて雙筋にし垂下し鳩尾の尖にて齊しくなし即ち雙べ截る是縄の中心を喉の結骨の上に着て縄の両頭を引て後へ向へ背骨の正中に當て縄の端の盡るところ墨して記す卻て病者をして口を合さしめ短き蠟縄を以て横に口の両吻を一文字の如く截取る中より摺て墨して記し背骨の上の前に點する所に推して前のごとく横に両端の盡るところに墨して記し是四穴と共に同時に灸各七壯より十五壯に至て百壯にいたる或は百五十壯神効あり灸瘡初て發るそれを候ふて後の法に依て又二穴は灸すべし

第三の二穴は第次の口を量る一文字の縄を中より摺て墨して記し第次の背骨の上へ正中に推して上下に濶き縄の端し上下盡るところ墨して記して是四花の穴より灸すること各々百壯第三とかふ六穴也日輪の火を取て是に灸すること奇効あり尤妙なれハ百日の中飲食房勞を慎み身を靜かなる處に置て心を安んじ三十日の後尚いまだ愈ざる事を覺ゆれは復初の灸穴に再灸すべし

ガラス使用

（九十一） 小兒門

○遊風の毒胸腹に入則ハ死なり是時急に三稜針を以て紅き處を亂刺して多く悪血を出し翌日更に紅赤の處を見て右のごとく針刺ハ奇効あり○驚風にハ神道に灸七壯より百壯に至る○陰卵偏く大にして腹に入るにハ太冲獨陰氣海三陰交關元を治すべし○雀目にハ手の大指の甲の後乃第一の節の内の横紋の頭白肉の際に各灸一壯。肝兪に九壯○兒生まれて一七日の内啼こと多く。客風臍より中りて心脾に至るにハ神門合谷太冲列缺各灸七壯○先に驚て後に啼ことの噪しきにハ百會に七壯齦交間使に五壯○浮腫ありて氣促するにハ水分に三壯三陰交に三十壯脾兪に三壯奇効あり○乳を吐もの。中庭。亶中の下一寸六分に灸すること五壯○四五歳まで言いはざるにハ心兪足の内踝しの尖の上に各灸すること三壯○臍の腫るにハ。臍に對する。背骨の上に灸三壯或ハ七壯奇効あり○小便通ぜざるにハ。百會に七壯。湧泉に三壯。胞門に五十

ガラス使用

壮。而して後巴豆の肉を搗て餅となし。臍の中に塡て灸五七壮妙○口噤するには然谷を治すべし○善驚には然谷○多く哭するには百會○遺尿するには氣海に百壮。太敦に三壮妙効あり○夜々魘と見。怯へ或は自汗し驚き悸し。或は詈りて息ず。又は譫語とするには心俞に百壮。腰眼。大陵。湧泉。後谿等に三壮即効あり

(卆二)

五癇門

△夫急驚風は風に因て作る或は禽獸雞犬の聲を聞て作る。口涎を生じ。一身搐搦し。身口皆熱し其發るや暴烈し。惺て後。舊のごとし

慢驚風は大病の餘或は大吐の餘より發するものなり。內大に虚乏し其身口鼻の氣出ることも皆冷時々瘈瘲し或は昏睡して睛を露す類ひなり

右急慢驚の両症ありて氣絶するものは先太衝の脉を胗に絶ざるものは。必治すべきなり○其治法には百會に三壮灸し。或は両乳の頭に五壮背の第二推と五推とに灸七壮。或は臍の中に百壮神効あり△醫多くは大炷を以て灸壮を多くせず。僅に十四五壮にて止。曰く不治なりとは歎すべし予往々是症に遇ふに先太衝の脉を胗して未絶ざるものは肝俞鬼眼神庭百會

ガラス使用

等に灸し。後は神闕は灸す五十壯より百壯二百壯にいたりて輙ち効を奏することあり△案ずるに火氣神に徹せざれハ驗なし。神と補ふに火氣を以てし火氣能生を回す。神まさに火氣を得て盛なり。効あるゆゑ艾火の神を殷ふし。病を滅して孟軻の曰く三年の病に七年の艾を用ゆと。若之に據ればよく治せざるよりの疾ひなからん乎

馬癇ハ　金門神門臍中に三壯

羊癇ハ　大推に三壯第九推の下に三壯

牛癇ハ　鳩尾に五壯　三陰交大推を治す

雞癇ハ　百會間使絶骨申脉七壯

犬癇ハ　勞宮申脉に各一壯づゝ

猪癇ハ　太淵巨闕絶骨に三壯

食癇ハ　鳩尾の上五分に三壯　三陰交

---

⑬○婦人門

婦人多くハ血病なり。經水期なくして來すれハ血虚して熱あるがゆゑなり。經水來んとするに痛を作すものは血實して氣の滯るなり○婦人月水調はず。或ハ小產の後帶下腹痛口乾き發熱し大腸調はず。時々に血を下し久しく懷孕ざるには石門に七壯より百壯に至

る。曲泉に三十壮奇効あり○女子十五六歳にして經水行ず。日夜寒熱往来し手足痺れ食進ず。頭痛心悪く嘔吐し腹中塊ありて否へ痛には。天樞ゟ百壮章門。大腸兪。曲泉。曲池。臍に對する背骨の上に二十一壮灸して即効あり○陰挺の出るには。照海。太敦。太谿。陰蹻。曲骨。曲泉に三壮○血塊ありて月事調はざるには關元間使。陰蹻。天樞。皆針して奇効あり○臍下に冷痛ありて時々痛むには。氣海。獨陰。陰交。太冲に灸すること百壮より二百壮○赤白の帯下には。曲骨に七壮。太冲。關元 復溜 三陰交 天樞に一百壮灸して○月經の通ぜざるには。合谷。陰交。血海。氣衝に針すべし○血淋には。丹田に七壮より一百壮に至る○淋瀝には照海。曲泉。小腸兪。皆針して神効あり○悪血して腹痛するには。石門に十四壮より百壮に至る。陰都。巨闕と狹むこと一寸五分にて下の二寸に直る。灸三壮針は禁ずべし。一度針せば身を終まで子なし。四満は臍の傍を狹むこと五分にあり下の二寸直る。灸三壮神効あり○乳癰には騎竹馬の穴に灸して妙効○乳の汁なきには亶中に七壮より五十壮に至る妙なり。是穴處は針を禁ず○陰中乾き痛みて陰陽を合すること能はざるには曲骨に五十壮奇効あり

ガラス使用

○小便より血交て出るには。膈俞に針すること三分留むこと七呼灸三壯○月事斷ざれば陰蹻に三壯。陰交に百壯

（廿四）風癩門

鼻塞て面熱して夜寢ては鼻より血を出し。眉毛墮落眼瞼腫ては一身搔痒瘡を成す。三稜針を以て一二日と間て身上の肉黒きところを亂刺し。肉汗出るに至こと百日。又針して骨に至こと初のごとく。汗出ること百日鬚眉生じて後に即止なり。灸もまた肉黒きところに隨て佳し。只調攝は專ら針灸の法に依れ。愼で風寒に觸ことなかれ良効あり。治穴は委中。尺澤。太冲。皆針して血

と出し棄ること糞のごとし。池門。中渚。絶骨。崑崙。申脉。太淵照海。内關。合谷。心俞。肺俞。胃俞。脾俞等皆治すべし

（廿五）急死門

中惡と名く病あり。是病は惡き氣に中るなり。皆陰中の毒氣なり人多くは莽々たる草の中。或は生茂てある藪の裏或は人常に行ぬ墓原よりなり或は古き井口に入って忽ち急死することあり。是時忽に百會に二十一壯間使。年壯。兼癸に七壯。人中に五十壯。陰卵の下十字の紋に三壯。神闕に百壯。下三里に七壯。大に神効あり皆能生と回さんとなしたし○溺水して死したるには。神闕に

百壯。即ち活すること神のごとし○弔死したるには。先心下を候べし。微しにても温りあれは必活べし。法に首を縦めずして索を解あるべし。衣服を取。温なる所に安く臥しめ。厚く裹きびしく肛門を塡め。一人は頭髪を引。縦めば。一人は胸肩を摩て頻々屈め伸し後。竹の管を以て両方の鼻の孔を吹ば即ち活べし。奇々妙なり必ず針灸を急ぎ施すべからず。三日を過して章門を焼こと廿一壯

○中暑にて死せんとするには急に両乳の上に灸すること七壯妙効あり

（廿六）草度の方

血氣形志篇に曰く。背の俞を知んと欲せば。先其両乳の間を度て。中にて是を折て。更に他の草を以て度て半は去已り。即ち両隅を以て相柱すしむ△両乳と度るに古昔は細長き草を以て量しなり。今は蠟縄を用ゆ。便利なる故なり。蠟縄を以て両乳の間を量り是を八寸と定む。偖八寸の尺は真中より折ば偏々四寸となる

八寸の蠟縄を二つに折は偏々四寸づゝになるなり圖上のごとし

更に他の草を以て度とし改めて。別に外の蠟縄を以て前の中に折る四寸の尺ふらく是をも又四寸なる圖左のごとし

更に別の尺を以て前の偏く四寸にくべけり取なり

半を去已ときハ右の四寸の尺を又真中より二つに折て二つに折れハ二寸となる偏く捨て二寸を取故ニ半を去と云

上ハ二寸を切捨
下ハ二寸はすなり

此二寸の尺を以て法とし紙を四角に切て二寸四方となし是を筋違に折。角と角と重合せて三角鱗の象となれなり。即ち両隅を以て柱すとん是を云なり。隅とハ角なる四角の紙を角と角とを合すとハ三角となる。是形を柱すらで圖左のごとし

此二寸乃紙を法とし是の如く二寸四方に紙を截なり

二寸四方の紙を圖の如く筋違に折るなり是を斜に折らで上にて處乃角と角と合する也

三隅の象

隅は角なり三隅とは三角なり上みの筋違に折る此のごとく三角になり鱗形のごとく琴柱に似たり經文の柱の字ハ是義なり

右の三隅の象をあげて以て背と量る上み乃尖をと大推に當て下の両傍乃尖を便ち背の二行にあつるなり

圖の如し

下両隅の端に点は両兪相去こと全く三寸これ背兪扁と相合そ

(六七)　禁針穴の歌七首　數々唱て記臆すべし

○二十二穴針を忌づる所あり脳戸顖會に神庭乃穴

○承泣と承靈はたと玉枕角孫顱顖絡却とやまで

○神道に靈臺亶中忌べきぞ神闕會陰水分の穴

○横骨と氣衝手の五里三陽絡箕門承筋及び青靈

○過く肩井ふかく刺めさば人は氣絶すれとてあるぞ

○雲門と鳩尾を嘗く刺なかれまた缺盆と客主人なり

(六八)　禁灸穴の歌

○禁灸は四十五ところあるらし承光瘂門風府なりけるて

○其つぎハ天柱素窌臨泣ふ睛明攅竹迎香乃りかぞ

○第三ハ禾窌顴窌紫竹空頭維と下關と背中の穴

○乳の中と又人迎と天牖と肩貞心俞白環とゞむ

○鳩尾と魚際と淵液ふ少商天府腹哀ハやんべ

○隱白に漏谷條口陰陵泉灸を忌べし陽池陽關

○殷門ふ委中の穴ハ猶さらよ陰市申脉兼扶いましめ

㉙針灸の吉日

丁卯　丁亥　庚午　庚子　甲戌　甲申　丙子

丙午　癸丑　丙戌　壬午　壬子　壬戌　辛卯

戊戌　戊申　己亥　乙巳　丁丑　丙申

㉚針灸の忌日

毎月　六日　十六日　十八日　二十三日　二十四日　晦日

又三日十五日晦朔節に入の前後一日ハ凶なり

假名讀鍼灸治法　巻之下終

ガラス使用

特 1
2287

文化六年己巳秋

東都 甘泉堂藏

弘所

江戸日本橋通三丁目
須原屋平助

京冨小路三条下ル町
同 平左衛門

假名讀十四經 全部二冊

右の書ハ十四經發揮を讀易きかなを加へ文句の
これが為にハたふ其譯をくハしく紀し初心のともがら
療治を行ふべきことを明かならしむ

ガラス使用